

令和2年度 授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修 成果報告書

校長・准校長サイン	名前
-----------	----

学校名	府立福井高等学校	名前
-----	----------	----

1 学校教育目標（めざす生徒像）

「夢・発見・実現」。総合学科高校の特色を活かし、「ドリカム」授業をコアカリキュラムとし、各系列での学習を通して生徒の興味や関心に応じた幅広い知識や技能を習得させるとともに、学校全体での人権教育・生徒支援・生徒指導のうえに、キャリア教育・教科指導等を密接に連携させて、きめ細かい支援・指導を行い、生徒一人ひとりの「進路実現」を具現する。

- 1 将来に夢と希望を持ちながら自己の具体的なキャリアビジョンを設定し、実現に向け粘り強く継続する力を育成する。
- 2 多様な社会の流れや課題の本質を理解し、高い自尊感情を持ちながら変化の時代を生き抜く力を育成する。
- 3 地域との繋がり人との繋がりを大切にし、互いに助け合い高めあう関係を築くことのできる力を育成する。
- 4 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」実施校として、外国にルーツを持つ生徒への適切な支援を行うとともに、多文化共生を推進する。

2 令和元年度の校内研究の取組み

(1) 研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

全員で取り組む授業向上（～ 夢・発見・実現ができる生徒を育てる ～）

②テーマ設定理由

本校は総合学科で、特色ある授業が多く、学力層の散らばりも目立つ。さらに、外国ルーツの生徒の在籍率も高く、支援が必要な生徒の人数も近年増えている。結果、教員の授業に対する自己評価と、生徒の授業に対する満足度に差が出ていることが、学校教育自己診断のアンケートにも表れている（図1参照）。

以上から、教員“全員”が現状の教員と生徒の意識の差について把握し、改善の方向性を揃え、点（個人）ではなく、面（全体）の改善をすることをテーマにした。また、授業「改善」ではなく授業「向上」としたのは、教員の現状の授業を否定し“改める”わけではなく、今ある良さを伸ばしつつ、良い手法を取り入れてほしいという意図である。

最終的には、生徒が授業に前向きな意識を持てるようにすることで、本校の学校教育目標である、「夢・発見・実現」が自らできる、前向きな生徒を育てることにつながっていきたいと考え、表記の副題を入れた。

全員で取り組む授業向上
～ 夢・発見・実現ができる生徒を育てる ～

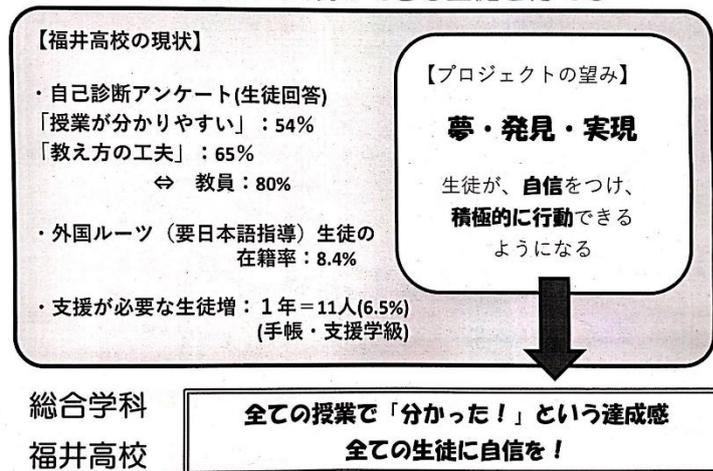


図 1

(2) 校内研究の取組みについて

①研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと(明確化した今年度のポイント)

1学期末に授業に関するアンケートを実施し、今年度の改善項目を把握する。改善項目の結果をよりよくするために、教員内で話し合い実践することで、年度末のアンケート結果につなげていく。

②具体的な取組み

- (ア) 授業に関するアンケートを1学期末(7月)と年度末(1月)に実施
- (イ) 10月の職員全体研修でアンケートの項目の肯定率向上の方法を話合う
- (ウ) 授業見学週間を設定し、アンケート結果を意識した授業を互いに見学する
- (エ) 12月の職員全体研修で各自の目標を設定し、1月の授業向上週間で各自実践する
- (オ) アンケート結果を振り返るなど、次年度につなげる取組みをする

③取組みの検証方法

(ア) 授業に関するアンケートを1学期末(7月)と年度末(1月)に実施

- ・生徒と教員のアンケート結果を7月末と1月末の2回実施した。7月のアンケートは教員17項目、生徒14項目で実施し、授業で改善すべき目標を把握した。
- ・教員と生徒の肯定差が最も多かった「進度・難易度」「興味・関心」「机間指導」の3項目を重点向上目標とし、1月のアンケートはその3項目で実施した。

(イ) 10月の職員全体研修でアンケートの項目の肯定率向上の方法を話合う

- ・指導主事を招いて、「今後どのような授業が求められるのか」講義していただき、授業改善の方向性についてベースとなる知識や助言をいただいた。
- ・7月末のアンケート結果を元に、肯定差の大きい3項目についての改善方法を考えた。その際、教科ごとに分かれてKJ法で意見を出し合い、発表も行い全体に共有した。

(ウ) 11月に授業見学週間を設定し、アンケート結果を意識した授業を互いに見学する

- ・11月に授業見学をする期間を設定。その際、10月の研修で出た意見をもとに授業を改善することを目標にする。

- ・教科ごとに授業改善の代表者を設定し、代表者の授業は原則見学することとした。また、初任者や10年経験者研修受講者の研究授業も期間付近で実施し、見学を促した。
- (エ) 12月の職員全体研修で各自の目標を設定し、1月の授業向上週間で各自実践する
- ・教科ごとに分かれ、授業見学週間で見学した授業についての意見交換を行った。その後、授業改善に向けての教科ごとの目標設定と、個人の目標設定を行い、「個人振り返りシート」に各教員が目標を記入した。
 - ・「個人振り返りシート」の目標を元に、1月の授業向上週間で授業向上に取り組み、取り組み後の自身の授業の変化を振り返り、担当者に提出した。
 - ・期間中に、3項目の改善を意識したパッケージ研修代表者の研究授業を実施した。
- (オ) アンケート結果や通年の取り組みを振り返り、次年度につなげる
- ・アンケート結果をグラフで視覚化し、総括を含めて教員全体に共有する。それに対する意見をアンケートという形で集約し、授業向上プロジェクトチーム（以後 JPT と表記）メンバーと共有することで、次年度の授業改善につなげていく。
 - ・次年度を見越して、試行的に3年の授業のない期間での授業見学週間を実施する。その際、どれだけ授業見学者数が増えるかも確認する。

3 取り組みの検証

(1) 校内研究の成果

(ア) 授業に関するアンケートを1学期末（7月）と年度末（1月）に実施

- ・「学校教育自己診断」や「授業アンケート」を元に、JPTメンバー内で話し合い、教員へ17項目、生徒へ14項目を設定。その際、答え易いように言い回しも検討した。
 - ・7月の実施はマークシート方式にし、教員は職員会議後、生徒はテスト後のHRで実施した。回収率は教員38/63人（60%）、生徒531/542人（98%）だった。1月は教員の回収率をあげるために、①アンケート項目を絞る②メールでの提出も可能とする③JPTメンバーで個別の声掛けをする、など行い、教員回収率は55/63人（87%）と増加した。また、1月の生徒へのアンケートにはQRコードからGoogleフォームへのアンケートを行う形をとったが、テスト後の実施ではなく、出席率が下がったことも影響して、回収率は511/542人（94%）となった。
- 以下はアンケート結果である。

【質問項目一覧】

番	質問項目 (教員)	質問項目 (生徒)	質問略称
1	話し方や指示、質問等をわかりやすくすることを心がけている	先生の話し方や指示、質問等はわかりやすい	1.分かりやすさ
2	生徒の実態をふまえ、学習指導の方法や内容について、工夫・改善を行っている	先生は教え方を工夫している	2.工夫
3	進度や難易度は生徒に合わせたものになっている	授業の進度や難易度は、自分にあっていく	3.進捗難易度
4	生徒は授業を受けて、知識や技能を身に付けている	授業を受けて、知識や技能が身に付いた	4.知識技能
5	生徒が興味・関心をもてる授業内容を心がけている	授業に、興味・関心をもてる	5.興味関心
6	生徒は積極的に授業に参加している	授業に、積極的に参加している	6.積極性
7	生徒へ発問したり考えさせたりする機会を多く与えている	授業中、発言する機会がある	7.発言機会
8	生徒の集中力が切れないような授業展開ができていく	授業中、集中して先生の話を聞いている	8.集中力
9	授業の目標や大切なポイントは毎時間説明している	先生は、目標とポイントを教えてくれる	9.目標ポイント
10	授業の評価は適切に設定をし、生徒に対しても事前に提示している	評価の仕方や基準を知っている	10.評価提示
11	机間指導するなど、生徒の状況を把握しながら授業を進めている	先生は授業中、一人一人に声かけをしてくれる	11.机間指導
12	コンピューター等の情報機器が活用されている	授業では、コンピューター等の情報機器が活用されている	12.ICT活用
13	宿題・予習・復習の指示を生徒にしている	宿題・予習・復習をしている	13.家庭学習
14	他の教員の授業を見学する機会を持っている	他の先生が授業に見学に来ることがある	14.授業見学
15	他の教員と年間の学習指導計画について話し合い、教材の精選・工夫を行っている		15.学習計画
16	他の教員と授業方法等について検討する機会を持っている		16.授業方法
17	指導内容や評価について、他の教科の担当者と話し合う機会がある		17.別教科連携

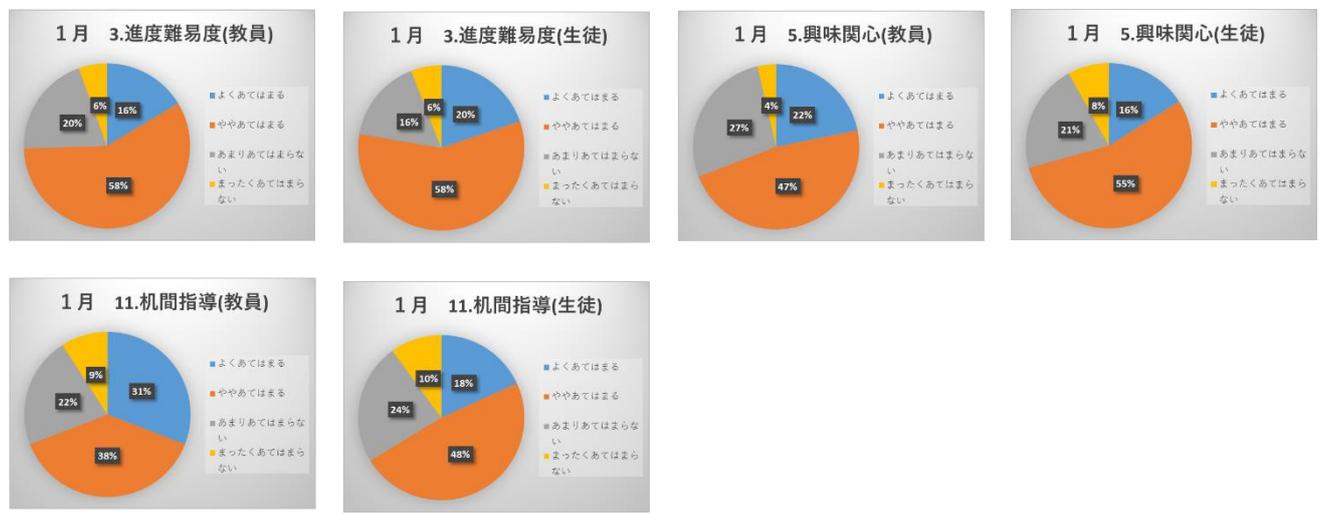
【7月アンケート結果】





で囲んだ3項目は、(教員の肯定率)-(生徒の肯定率)の差が大きかったものである。
3. 進度難易度の肯定差は22.3%、5. 興味関心の肯定差は30.9%、11. 机間指導の肯定差は31.2%
 となっていた。この3項目について、1月に再度アンケートを実施した。

【1月アンケート結果】



アンケートの結果、(教員の肯定率)-(生徒の肯定率)の差は
3. 進度難易度の肯定差は-3.1%、5. 興味関心の肯定差は-1.5%、11. 机間指導の肯定差は2.8%
 にまで減少した。



図 3



図 4



図 6

第 1 回 授業向上研修 ワークシート

2020/10/13

授業向上PT

以下、7月に集計した授業に関するアンケート結果です。

①	質問項目 (教員)	質問項目 (生徒)
	授業や教材は生徒に合わせたものになっている	授業の進捗や難易度は、自分に合っている
	教員大専 教員小専 教員小専 教員大専 生徒大専 生徒小専 生徒小専 教員専定 教員志定 生徒専定 生徒志定 肯定差	
	47.4 50 2.6 0 27.3 47.8 19.8 5.1 97.4 2.6 75.1 24.9 7.3	
②	質問項目 (教員)	質問項目 (生徒)
	生徒の興味・関心をもてる授業内容を心がけている	授業に、興味・関心をもてる
	教員大専 教員小専 教員小専 教員大専 生徒大専 生徒小専 生徒小専 教員専定 教員志定 生徒専定 生徒志定 肯定差	
	42.1 57.9 0 0 27.2 41.9 25.1 5.8 100 0 69.1 30.9 30.8	
③	質問項目 (教員)	質問項目 (生徒)
	質問紙など、生徒の状況を把握し、その結果を踏まえている	先生は授業中、一人一人に声をかけてくれる
	教員大専 教員小専 教員小専 教員大専 生徒大専 生徒小専 生徒小専 教員専定 教員志定 生徒専定 生徒志定 肯定差	
	63.2 28.9 7.9 0 21.8 39.1 31.5 7.6 92.1 7.9 60.9 39.1 31.8	

1.生徒の現状についてどう思われますか。

2.ご自身の授業に関してどう思われますか。

図 5

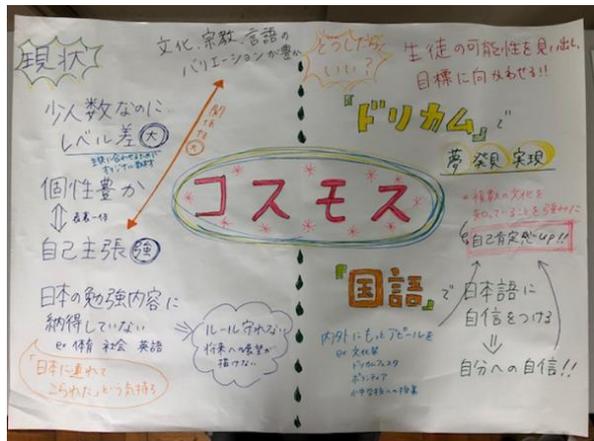


図 7

(ウ) 授業見学週間を設定し、アンケート結果を意識した授業を互いに見学する

- ・教科ごとに授業改善の代表者を設定し、代表者の授業は授業見学週間（11/9～20）内に1回以上見学することを促した。授業見学後には、授業観察シート（図8）を提出するよう依頼した。観察シートは期間内に15件程度回収できた（教員数は63人）。
- ・授業見学をより活性化するために、授業見学が可能な授業の場所と時間割を職員室の中央黒板に掲示した（図9）。また、初任者研修や10年目研修者の授業も同時期に行うことで、見学者をより増やす手助けになったと考えられる。

相互授業見学期間「授業観察シート」

授業者				観察者			
日時	月	日()	曜日	限目	場所		
科目				人数			

評価のポイント	低	←	→	高
生徒はついていけているか	1	2	3	
生徒の興味・関心を惹く内容か	1	2	3	
生徒への個別指導は適切か	1	2	3	
コメント				

レターケース上の提出BOXへ

図8

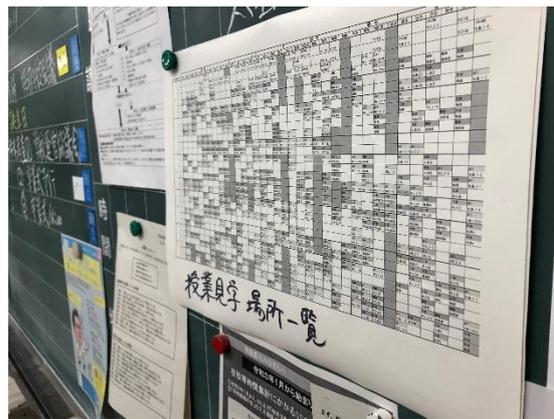


図9

(エ) 12月の職員全体研修で各自の目標を設定し、1月の授業向上週間で各自実践する

● 12月の職員全体研修

- ・12月は、10月の職員全体研修参加者が少なかったことを踏まえ、職員会議の時間を短縮するよう調整していただき、会議後30分間で行った（図10）。結果、参加率は前回の50%を大きく上回る39/54人（72%）と増加した。研修は、事前に配っていたレジュメに沿って以下の流れで行った。

- ① 授業者から、意識した点の共有（3分）
- ② 見学者から、参考になった点の共有（5分）
- ③ 質疑応答（2分）
- ④ 教科として、授業向上期間や以降の授業に向けての目標について話し合い（15分）
- ⑤ 個人として、今後の授業向上期間に向けての目標設定とレジュメ裏面にある「個人振り返りシート」（図11）記入（5分）



図10

- ・紛失を防ぐ為に「個人振り返りシート」は回収し、1月初めに再配布する旨を伝えた。
- ・シートに現状の授業の自己評価をパーセンテージで表すことで、視覚的に自分の現状を把握できるようにした。また、紙面に自分の目標を記入することで、自分の授業に対する取り組みを明確にできた。

授業向上期間「個人振り返りシート」

お名前 () 教科 ()

① 本日 12/3 までのご自身の授業について、各項目の到達度を色塗り をお願いします。

評価のポイント	自己評価 (0% ↔ 100%)
生徒はついていけているか	<input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 30 <input type="checkbox"/> 40 <input type="checkbox"/> 50 <input type="checkbox"/> 60 <input type="checkbox"/> 70 <input type="checkbox"/> 80 <input type="checkbox"/> 90 <input type="checkbox"/> 100
生徒の興味・関心を惹く内容か	<input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 30 <input type="checkbox"/> 40 <input type="checkbox"/> 50 <input type="checkbox"/> 60 <input type="checkbox"/> 70 <input type="checkbox"/> 80 <input type="checkbox"/> 90 <input type="checkbox"/> 100
生徒への個別指導は適切か	<input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 30 <input type="checkbox"/> 40 <input type="checkbox"/> 50 <input type="checkbox"/> 60 <input type="checkbox"/> 70 <input type="checkbox"/> 80 <input type="checkbox"/> 90 <input type="checkbox"/> 100

② 向上させる目標と、具体的に取り組もうとしていることを以下に記入してください。

③ ②を取り組み後のご自身の授業について、各項目の到達度を色塗り をお願いします。

評価のポイント	自己評価 (0% ↔ 100%)
生徒はついていけているか	<input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 30 <input type="checkbox"/> 40 <input type="checkbox"/> 50 <input type="checkbox"/> 60 <input type="checkbox"/> 70 <input type="checkbox"/> 80 <input type="checkbox"/> 90 <input type="checkbox"/> 100
生徒の興味・関心を惹く内容か	<input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 30 <input type="checkbox"/> 40 <input type="checkbox"/> 50 <input type="checkbox"/> 60 <input type="checkbox"/> 70 <input type="checkbox"/> 80 <input type="checkbox"/> 90 <input type="checkbox"/> 100
生徒への個別指導は適切か	<input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 30 <input type="checkbox"/> 40 <input type="checkbox"/> 50 <input type="checkbox"/> 60 <input type="checkbox"/> 70 <input type="checkbox"/> 80 <input type="checkbox"/> 90 <input type="checkbox"/> 100

④ 目標に向けて取り組んだ結果、変わった点や向上した点を以下に記入してください。

⑤ 以下の各項目について、当てはまるものにマーク をお願いします。

番号	質問	1	2	3	4
1	進度や難易度は生徒に合わせたものになっている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	生徒が興味・関心をもてる授業内容を心がけている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	机間指導するなど、生徒の状況を把握しながら授業を進めている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※ 本日 12/3(木)、一旦回収いたします。

1/27(水)までメールにて「数量」まで返信、もしくはレターケース上の提出BOXをお願いします。

図 1 1

● 1月の授業向上週間

- 1/12~1/22 の 2 週間で実施をし、各自の決めた目標に向かって授業改善を行っていた。また実施後、3 項目の自己評価をパーセンテージで表し、視覚的に自身の取り組みによる授業の変化を振り返ってもらった。また、取り組んだ結果を記入することで、できたところ・できないところを知ってもらい、次年度につなげるようにした。
- 授業向上週間中の 1/20 に、パッケージ研修代表者の研究授業を実施した (図 1 2)。

多くの先生に見学していただけるように、

- ①メールにて事前に指導案を送付し、
- ②見学できなかった先生用として、授業動画を撮影し、共有ファイルに保存した。研究協議は実施日当日に行い、撮影動画をセットした状態で、3 項目についての取り組みの観点から、協議を行った。

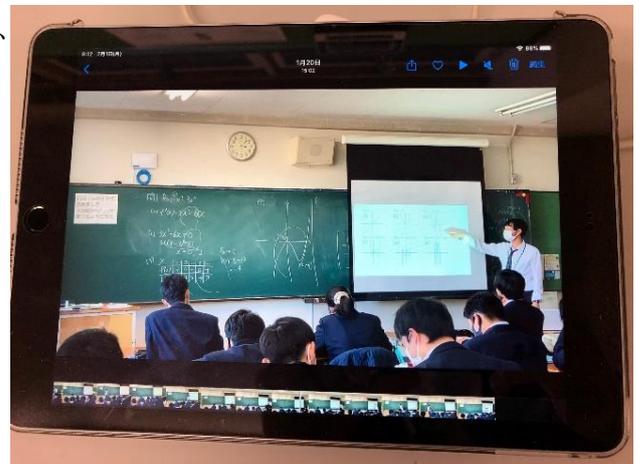


図 1 2

(オ) アンケート結果を振り返るなど、次年度につなげる取り組みをする

- ・アンケート結果や取り組みの総括は、職員メールや職員会議の場で教員全体に共有し、次年度に向けて意見を募る。また、授業見学期間を2/8～19の3年生の授業が終了している時期に行い、授業がない期間であれば、どの程度の教員が見学に参加できるかを把握する。同時に、次年度への授業改善の手がかりを、見学することによって見つけていただく。

(2) 生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

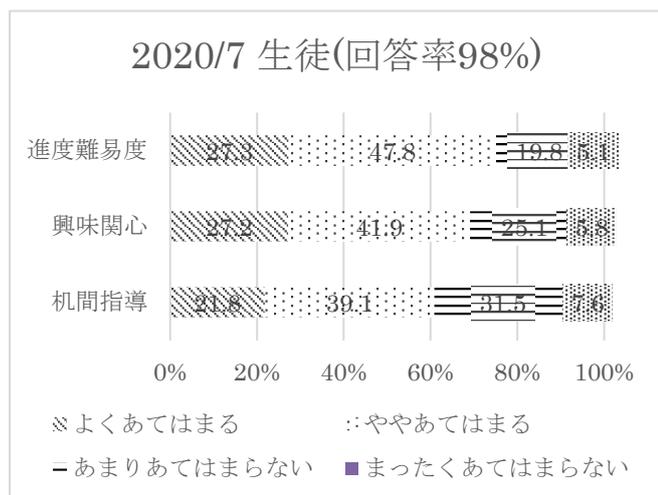


表 1

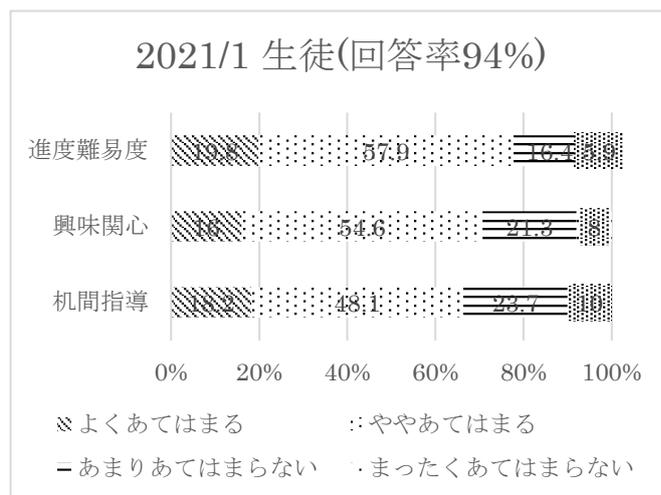


表 2

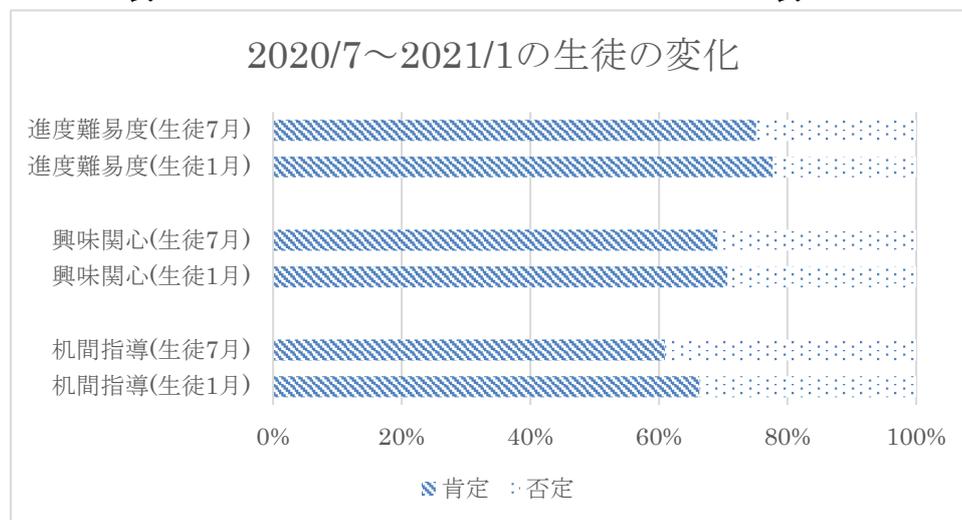


表 3

- ・7月の授業アンケート（表1）と1月の授業アンケート（表2）の結果を比較（表3）すると、進度難易度に関して2.6%、興味関心に関して1.5%、机間指導に関して5.4%の肯定率上昇がみられた。授業見学週間や授業向上週間を経て、教員が3項目に対して、授業改善を実践した結果が表れている。
- ・実際に授業見学を複数回行ったが、7月時点と比較して、生徒が授業に対して興味・関心を持ち、前向きに臨む様子が見て取れた。進度・難易度に関しても、それぞれの授業に対して遅すぎず、早すぎずの適切なスピードで授業を展開しているため、見学で

見る限り眠そうにしている生徒の数は減ったと感じられる。また、机間指導が増え、生徒がつまづいて諦め、授業を放棄してしまうという形は減少した。

(3) 教員の変容（授業改善により教員が何を学んだか・どんな感想をもったか）

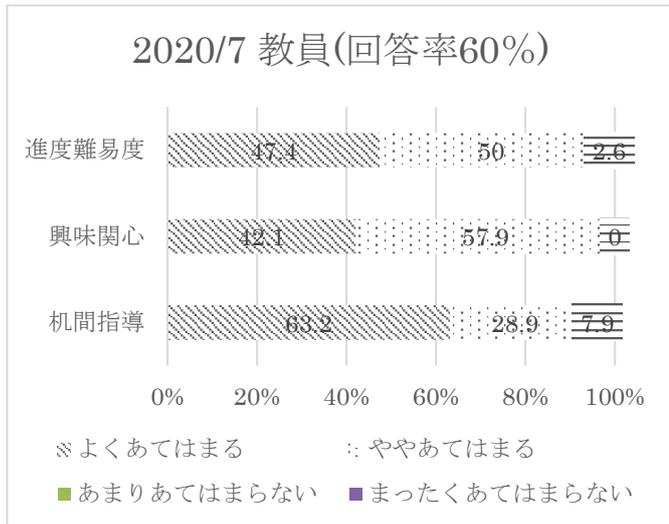


表4

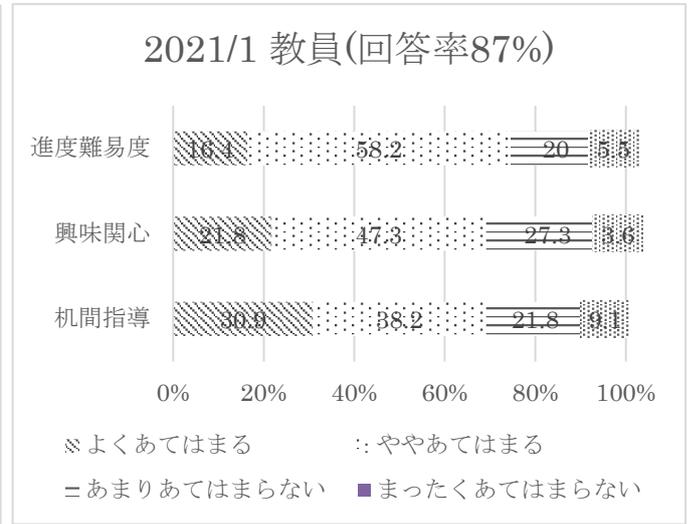


表5

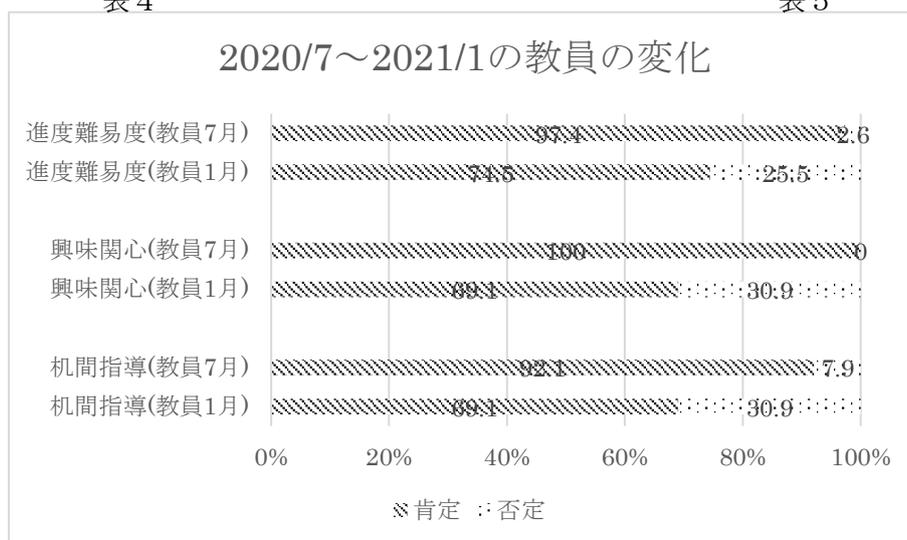


表6

- ・7月の授業アンケート（表4）と1月の授業アンケート（表5）の結果を比較（表6）すると、進度難易度に関して22.9%、興味関心に関して30.9%、机間指導に関して23.0%の肯定率減少がみられた。授業見学週間や授業向上週間を経て、教員が3項目に対して、生徒の感覚に見合った自己評価がなされた結果だと感じる。

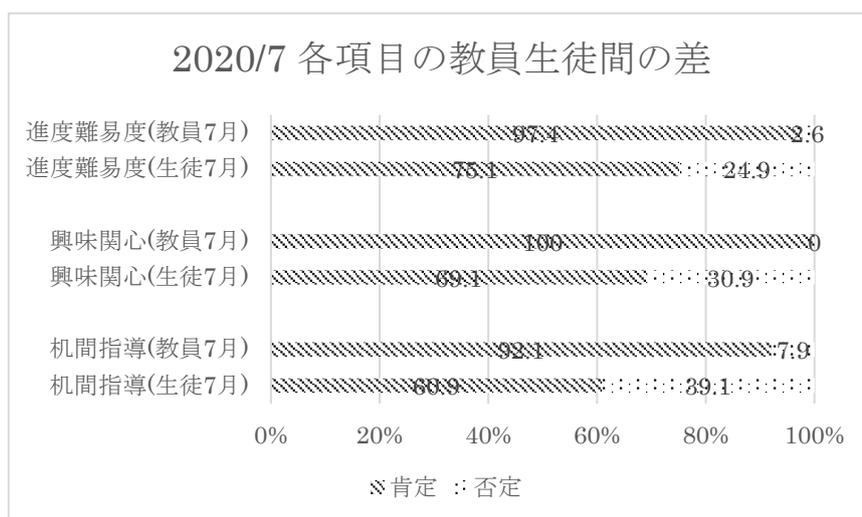


表 7

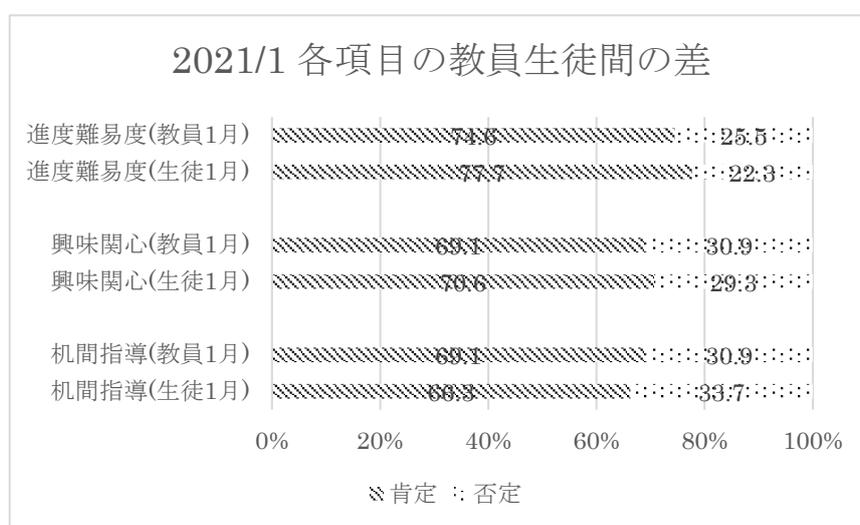


表 8

- 前述したが、7月のアンケート(表7)では、3. 進捗難易度の肯定差は22.3%、5. 興味関心の肯定差は30.9%、11. 机間指導の肯定差は31.2%と大きな差があったが、1月実施のアンケート(表8)では、3. 進捗難易度の肯定差は-3.1%、5. 興味関心の肯定差は-1.5%、11. 机間指導の肯定差は2.8%にまで大きく減少した。現状について自覚をすることはできたので、引き続き各自が考える授業向上していき、双方の肯定率を上げていくことにつなげていきたい。
- 教員間で議論し、授業について考える機会が増えたため、自分の方法に偏らず広い視野で授業向上につなげられたと思う。また、アンケートをとることで、客観的にみた本校の様子に気づき、思いを共有することにつなげられたと感じる。総合学科で、様々な生徒が在籍する本校で、生徒1人1人に適した授業をするのは難しいが、3つの項目に絞って授業改善を考えた結果、できることから授業をよりよくしていこうという意識につなげられたかと思う。意識改革ができたのは大きな収穫だと感じる。

4 今後に向けて

(1) 今年度の課題

全体研修の数や長さは、内容を精査し実施したが、各自の仕事量が多く負担感を感じる教員も少なくなく、より精査する必要がある。クラスによっては、授業が1学期から崩れ、授業規律をどのように確立していくかというところからしんどさを感じている教員も存在する。授業見学の数や研修参加率も改善の余地があり、方法を考えていく必要がある。

(2) 次年度に向けて

- ・年間を見通して研修計画を立て、負担感を減らす。また、年度当初から授業見学を行い、授業規律の面でも負担が少なくなるよう教員同士で助け合える雰囲気を作りたい。
- ・授業見学の回数も1回から3回に増やし、教科内で設定した“ペア”で授業も見合うなど仕組みを変え、見学をしやすい雰囲気をつくる。
- ・研修やその他の取り組みも、より魅力に感じるように宣伝することを心掛け、少しでも協力する教員を増やせるようにしていきたい。研修の日は短縮授業にして、参加を促したり、授業見学週間には、1日授業のある学年と午前授業の学年を作り、見学者を増やすなど、工夫をしていきたい。
- ・JPTのメンバーも教科の中で毎年選定し、同じメンバーに固定されるのではなく、輪番制で、様々な教員に参加していただき、当事者意識を持つ教員を増やしていきたい。
- ・目標にもある自立した生徒を育てていくために、手厚さの中にも自己肯定感を育てる工夫を取り込み、自分から一步踏み出せる”背中を押してあげられるような”仕組みも作っていきたい。

令和2年度 校内研修年間実施報告

1 令和2年度の目標(テーマ・主題)

全員で取り組む授業向上 ～ 夢・発見・実現ができる生徒を育てる ～

2 実施日・内容等

月	日	校 内 研 究 の 実 際	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
6	24	第1回授業向上PTミーティング ・メンバーの確認 ・今年度の目標や活動について確認	
	25		職員会議で周知と方針提示
7	1	第2回授業向上PTミーティング ・目標設定と年間計画策定 ・授業に関するアンケート作成	
	9		職員会議で教員へアンケート実施
	22		HRで生徒へアンケート実施
8	5	第3回授業向上PTミーティング ・授業アンケート結果確認 ・第1回職員全体研修の企画	
	6		メールにて第1回アンケート結果周知
	26	第4回授業向上PTミーティング ・第1回職員全体研修の企画	
10	7	第5回授業向上PTミーティング ・第1回職員全体研修の最終確認 ・第1回授業見学週間の企画 ・第2回職員全体研修の企画	
	13		第1回職員全体研修(13:30～15:00)
	28	第6回授業向上PTミーティング ・第1回授業見学週間の最終確認 ・第2回職員全体研修の企画	
11	9 ～ 21		第1回相互授業見学週間

11	17	第7回授業向上PTミーティング ・第2回職員全体研修の最終確認 ・授業向上期間の企画	
12	3		第2回職員全体研修(16:30~17:00)
1	12 ~ 22		授業向上期間 ・HRで生徒へアンケート実施 ・メールで教員へアンケート実施
	13	第8回授業向上PTミーティング ・総括作成 ・次年度の方針策定	
2	4		職員会議 ・第2回アンケート結果周知
	8 ~ 19		第2回相互授業見学週間
3	26	第9回授業向上PTミーティング ・授業見学期間の企画 ・総括完成	職員会議 ・総括報告 ・次年度の方針提示

令和3年度 校内研修年間計画

1 令和3年度の目標(テーマ・主題)

全員で取り組む授業向上 ～ 夢・発見・実現ができる生徒を育てる ～

2 年間予定

月	日	校 内 研 究 計 画	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4	1		教科会議 ・授業向上プロジェクトメンバーの選出
	上旬	第1回授業向上プロジェクトミーティング ・メンバー確認 ・今年度の目標や活動について確認 ・第1回授業見学期間の最終確認	教科会議 ・教科内で見学授業(ペア)を設定 (1人1回以上見学する・される) 職員会議 ・メンバーの周知 ・第1回授業見学期間の説明
	下旬		第1回授業見学期間 ・ペア以外も見学は可能とする
5	上旬	第2回授業向上プロジェクトミーティング ・目標設定と年間計画策定 ・授業に関するアンケート作成	
	下旬	第3回授業向上プロジェクトミーティング ・授業アンケートの結果確認 ・第1回職員全体研修の企画	・教員と生徒へ第1回アンケート実施 ・実施後メールにて結果を周知
7	上旬	第4回授業向上プロジェクトミーティング ・第1回職員全体研修の最終確認	第1回校内全体研修会 ・アンケート結果の向上に向けての議論 ・ICTの活用について
	下旬	第5回授業向上プロジェクトミーティング ・校内研修での意見を確認 ・第2回授業見学週間を企画 ・研究授業を企画	教科会議 ・教科内で見学授業(ペア)を設定 (前回とは違う授業を見る)
9	中旬		第2回授業見学週間 ・ペア以外も見学は可能とする ・期間内に研究授業も実施
	下旬	第6回授業向上プロジェクトミーティング	研究協議

		<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議の進め方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科に分かれて実施
10	中旬	<ul style="list-style-type: none"> 第7回授業向上プロジェクトミーティング ・第2回職員全体研修の企画 	
12	上旬	<ul style="list-style-type: none"> 第8回授業向上プロジェクトミーティング ・第2回職員全体研修の最終確認 ・授業向上週間の企画 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回職員全体研修 ・授業向上期間に向けた目標設定
1	中旬		<ul style="list-style-type: none"> 第3回授業見学週間＋授業向上週間 ・ペア以外も見学は可能とする ・設定した目標に沿って授業をする ・期間終盤に、生徒と教員に第2回授業アンケート実施
2	上旬	<ul style="list-style-type: none"> 第9回授業向上プロジェクトミーティング ・アンケート結果の確認 ・総括作成 ・次年度の方針策定 	<ul style="list-style-type: none"> メールにてアンケート結果周知
3	下旬		<ul style="list-style-type: none"> 職員会議 ・総括報告 ・次年度の方針提示